

第9回 岡山県マーチング&バトンステージフェスティバル 審査規定（案）

1. マーチング部門 ディビジョン1の審査

- (1) タイムオーバー（8分）は、審査対象外とする。
- (2) 審査の観点と審査員は、
「演奏技術」「動きと全体的効果」山崎 浩先生、「演奏表現」「動きと全体的効果」篠原 修先生
「動きと全体的効果」北田 有加先生 です。
- (3) 審査はICレコーダーによる、リアルタイム審査とする。審査用紙には評価を記入する。講評欄は特に記入したいことがあれば、コメントも入るが、「SDカードへ」等の記載となる。
- (4) 各内容の5つの観点（後で掲載）についてA～Eの5段階評価をし、Aが5点、Bが4点、Cが3点、Dが2点、Eが1点に換算し、その合計点を集計する。
- (5) 125点満点を5分の4倍して100点満点に換算したのち、80点以上を金賞、60点～79点を銀賞、84点以下を銅賞とする。中学校と高校については、最も優れた団体に審査員特別賞を授与する。

2. マーチング部門 ディビジョン2の審査

- (1) タイムオーバーによる失格はないが、大会運営に協力すること。
- (2) 審査方法は、ディビジョンIに準ずる。
- (3) すべての団体に優秀賞を与え、一般部門については、最も優れた団体にフェスティバル賞を授与する。

<参考：マーチング部門審査の観点>

(1) 演奏技術	①ピッチ・音程	・チューニングされた音
		・音程の正しい旋律
		・適切なピッチの打楽器
	②音色	・響きのよい音
		・それぞれの楽器の特性のある音
③和音	・純正調による美しい和音	
	・低音から高音までの適切なバランスの和音	
④リズム	・整然とそろったリズム	
	・統一されたアーティキュレーション	
⑤打楽器の奏法	・統一感のある奏法	
	・管楽器とのバランスを考えた奏法	
(2) 演奏表現	①テンポの設定・変化	・音楽の理解、解釈
		・統一感のあるテンポとテンポ変化
	②音量の設定・変化	・音楽の理解、解釈
		・統一感のある音量と音量変化
	③フレージング	・音楽の理解、解釈
		・効果的なアゴーギグや歌い方
	④バランス	・音楽の理解、解釈
		・各声部の効果的なバランス
・打楽器と管楽器の適切なバランス		

	⑤アンサンブル	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の理解、解釈 ・豊かな音楽性のある音楽作り
(4) 全体的効果	① 音楽と動きの 調和	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の理解、解釈
		<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の理解、解釈
		<ul style="list-style-type: none"> ・視覚と聴覚の一体性
	② 姿勢と集団美	<ul style="list-style-type: none"> ・統一感のある姿勢
		<ul style="list-style-type: none"> ・完成度の高い統一美
		<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な集団の動き
	③ アイディアとイ ンパクト	<ul style="list-style-type: none"> ・独創的、効果的な演出
		<ul style="list-style-type: none"> ・アピール度の高い演出
	④ ポジションワー クとボディーワー ク	<ul style="list-style-type: none"> ・正確なポジション
		<ul style="list-style-type: none"> ・完成度の高い図形（ライン）
		<ul style="list-style-type: none"> ・正確で完成度の高い動き
	⑤ 表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な動き
		<ul style="list-style-type: none"> ・作品のテーマを主張した、視聴覚の調和された表現
<ul style="list-style-type: none"> ・フロア、立体、空間によるステージングデザイン 		
<ul style="list-style-type: none"> ・観客への作品アピールやショーマンシップ 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・楽器や手具の正確で効果的な動き

3 カラーガード部門 ディビジョン1の審査

- (1) タイムオーバー（5分）は、審査対象外とする。
- (2) 審査の観点と審査員は「カラーガードの技術」山崎浩先生、「ボディーワーク」北田有加先生、「全体的効果」篠原修先生です。
- (3) 審査はICレコーダーによる、リアルタイム審査とする。審査用紙には評価を記入する。講評欄は特に記入したいことがあれば、コメントも入るが、「SDカードへ」等の記載となる。
- (4) 各内容の観点についてA～Eの5段階評価をし、Aが5点、Bが4点、Cが3点、Dが2点、Eが1点に換算し、その合計点を集計する。
- (5) 15点満点中、12点以上を金賞、8点以上を銀賞、7点以下を銅賞とする。
同一部門から2団体以上の出演があった場合、最も優れた団体に審査員特別賞を授与する。

4 バトン部門・カラーガード部門 ディビジョン2の審査

- (1) タイムオーバーによる失格はないが、大会運営に協力すること。
- (2) 審査の観点と審査員は「バトンテクニク」、「ボディーワーク」、「作品完成度」について北田有加先生に審査していただきます。
(カラーガードは上記カラーガードのディビジョン1に準ずる)
- (3) 審査はICレコーダーによる、リアルタイム審査とする。審査用紙には評価を記入する。講評欄は特に記入したいことがあれば、コメントも入るが、「SDカードへ」等の記載となる。
- (4) すべての団体に優秀賞を与え、バトン部門で最も優れた団体にフェスティバル賞を授与する。